

富山県呉西地区における交通まちづくりを担う  
城端線・氷見線沿線市民団体の実践活動  
～「呉西地区交通まちづくり市民会議」の取り組み～

呉西地区交通まちづくり市民会議  
 会長：松本久介  
 副会長：島野正友  
 事務局長：佐野友孝  
 顧問：古瀬正孝  
 局長：須摩孝一  
 本：本田豊



# 呉西地区交通まちづくり 市民会議



鉄道が走っているから学校に行ける  
バスが通っているから買い物や病院に…  
公共交通と地域づくりのよりよいあり方を  
広く皆さんとともに考えていきます。



【連絡先】 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 本田 豊 E-mail : honda@sus.u-toyama.ac.jp

## 取り組みの背景と目的

- 呉西地区交通まちづくり市民会議は、JR城端線・氷見線沿線のまちづくりに関わる市民団体が鉄道を中心に路線バス、路面電車、コミュニティバスなど交通まちづくりの視点からより良い地域づくりを目指すために発足しました。
- 行政や交通事業者などとも連携しながら、公共交通に関する公開講座やシンポジウム、利用促進イベントなどを開催して沿線の市民に活動の輪を広げ、公共交通全体をより良いものにして利用促進を図っていくことで、地域の活性化と暮らしやすさの向上を目指しています。

## 構成団体

- 呉西地区公共交通再生研究会、路面電車と都市の未来を考える会・高岡（RACDA高岡）、城端線砺波市利用促進実行委員会（城端線もりあげ隊）、ふるさと城端線応援団、南砺の城端線を活かす会、戸出地区未来創造異脳種会議「戸出によっといで」

## 協力団体

- 城端・氷見線活性化推進協議会、となみ野田園空間博物館推進協議会、富山大学都市デザイン学部都市政策支援ユニット、JR西日本

## 【活動の内容】沿線住民や行政機関等を対象とした公開講座・学習会・視察会

### 2018年度

- ①「通学・通勤の足」地域の交通を考える（京都府における公共交通の取り組み）  
（福野文化創造センターヘリオス）
- ②「住民主体による地域の足の確保」西宮市生瀬地区の取り組み  
（となみ散居村ミュージアム）
- ③「城端線・氷見線の活かし方」  
（ウイング・ウイング高岡）

### 2019年度

- ①「近未来の地域交通を考える」  
（福野文化創造センターヘリオス）
- ②「地域の持続可能性を高めるための公共交通と住民の役割」  
（じょうはな座）
- ③「バスを活用した交通まちづくり」  
（となみ散居村ミュージアム）
- ④「都市の装置としての地方鉄道の活性化」  
（ウイング・ウイング高岡）

### 2020年度

- ①LRT学習会「福井におけるLRTの取り組み」  
（御旅屋セリオ）
- ②LRT学習会「富山港線を路面電車化により再生した富山市の取り組みについて」  
（となみ散居村ミュージアム）
- ③「お出かけの危機と地域モビリティの作り方」  
（福野文化創造センターヘリオス）
- ④「公共交通の再評価と福井のLRT」  
（福野文化創造センターヘリオス）

## 【発足の経緯】

- ・市民会議発足は、2017年に呉西地区の市民団体が「城端線120周年記念事業」として連続講座（全6回）と記念シンポジウムを開催したのがきっかけです。
- ・成り立ちも考え方も違う団体が、いっしょに活動することはいろいろと難しい点もありましたが、大きな力が生まれました。

## 【活動の成果】

- ①公開講座への参加者は、これまでに延べ550人（沿線市民、国・府県・市町村の行政、交通事業者、地方議員、学識者、学生、事業者など）。
  - ②公開講座へのアンケート調査では高い評価を得ています。（→右図参照）
  - ③協賛会員登録者（80名：2019年度）は徐々に増加しています。
- ・「講座を開いて、それで終わり」というやり方ではなく、録画や文字起こしをホームページに掲載するほか、報告書にもまとめてきました。講座を聴講しなかった人にも貴重な内容を伝えられるようにすることで、情報の共有を図っています。4年分の全講座が視聴できるほか、報告書で読むこともできます。

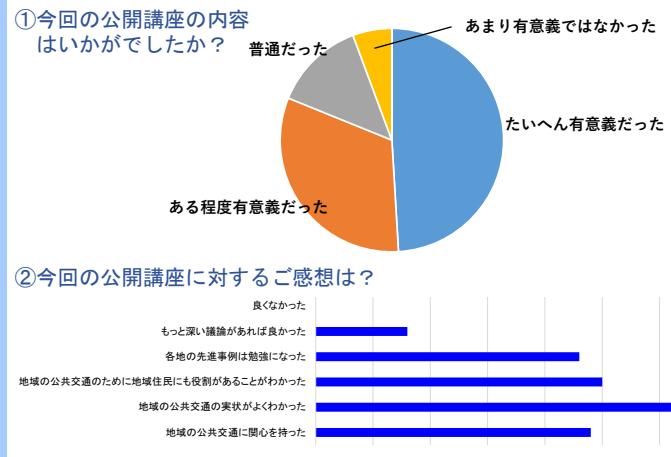
### ◆LRT現地視察会福井編（福井鉄道・えちぜん鉄道）



### ◆LRT現地視察会富山編（旧富山ライトレール）



## 【参加者の声】（2019年第2回公開講座アンケート）



## ◆沿線住民に交通まちづくりへの関心を高めていく◆

JR城端線・氷見線沿線の6つの市民団体が連携・協力して市民組織を運営し、沿線4市による「城端・氷見線活性化推進協議会」をはじめ、交通事業者、富山大学都市デザイン学部都市政策支援ユニットの協力を得ながら、沿線地域の住民を対象に交通まちづくりへの関心を高め、地域公共交通に対する意識の醸成を図るなど、質の高い活動を継続しています。今後は、現在の勉強会を中心とした活動プログラムを持続的に進めるとともに、地域における実践活動にも取り組んでいきます。

## 結論

## ◆これからの活動◆

JR城端・氷見線ではLRT化の検討が始まりました。住民が自ら交通を含む地域の課題を考え、理想の姿に向かって、できることから取り組んでもらえることを期待して活動していきます。今後も引き続き、沿線地域における地域モビリティ創造の動きとともに、沿線の基幹公共交通機関であるJR城端線・氷見線のLRT化検討を両輪にして、公開講座や学習会を通じ、沿線住民と地域交通の未来を考えていく予定です。